

嗾し、酋長即ち成吉斯汗の後裔を追ひ、自立して派罕巴爾（回語天使の意なり）と稱し、威權諸部を凌ぐ、是れ回部に酋長ある始めとす。

回部始めて清廷に通ず

其後準噶爾部四方を併吞し、哈薩克の如き皆之に服屬するに至り、回部も亦質を納れ、諸税を收め以て其の隸屬と爲りしも、暴戾に堪へずして清廷に入貢す。是を回部王、清廷に通ずるの始とす。蓋し準噶爾とは、西域の蒙古族にして、初め元の亡ぶるや、蒙古分れて漠南（内蒙古）、漠北（外蒙古）、漠西（衛拉特又厄魯特）の三大部と爲り、其の漠西に在る者、更に準噶爾、杜爾伯特、土爾扈特、和碩特の四部に分れ、準噶爾は伊犁に、杜爾伯特は額爾齊斯に、土爾扈特は塔爾巴哈臺に、和碩特は烏魯木齊に入り、四衛拉特（又四厄魯特）の蒙古と稱へ、其の衆天山北西の曠野一帶、南、青海に連りて游牧せり。

準噶爾の勃興

斯くて明の末世に至り、四衛拉特は内訌に因りて離散し、吐爾扈特部は西行して露領額濟勒に游牧し、和碩特の固始汗は、烏魯木齊より入つて青海に據り、唐古特を撃て之を破り、西藏を侵して喀木を略し、威勢甚だ旺盛なり。従て伊犁の準噶爾亦附近の諸部を併せ、其の酋長僧格の死に當り、弟噶爾丹自立して汗と稱し、勢ひ益々強く、遂には悉く他の三部をも併せ、威令既に青海、西藏に及び、南北兩路を初め、擧て之